

令和8年度公開プロセス結果（概略版）

府省庁名

農林水産省

事業名

中堅外食事業者資金融通円滑化事業（基金）

事業の概要

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、より厳しい経営環境に置かれ、信用力が低下している中堅・大手外食事業者の資金調達が円滑に行われるよう、債務保証を実施。

公開プロセスにおいて踏まえられた「点検の視点」※

※「租税特別措置・補助金見直しに関する関係閣僚等及び副大臣会議（第2回）」において示された、国民からのご提案を踏まえた各府省庁における自己点検の視点。
（参考）[各府省庁における要求・要望に向けた自己点検](#)

- 補助金依存体質を改め、自治体・事業者の自立や成長につながる仕組みに改めるべき
- 【基金】一定期間ごとにKPI等を検証し、資金配分に反映すべき

有識者からの主な指摘事項

- コロナ禍において、緊急対応として需要を大きめに見込んだことは理解できる。補助金でなく債務保証での実施も効率的であった。しかし、制度開始後に申請件数、相談件数、他制度の利用状況を把握し、基金規模を早期に見直す仕組みがあると良かった。実績が少なかった理由が、需要不足だけでなく、減資により他制度を利用したことや、保証があっても融資を受けられなかったなど、本制度が十分に機能しなかった可能性もあり、これらをリアルタイムで把握して対応方策を実施することも考えられたのではないかと。
- 本事業のアウトカム成果指標は、債務保証を受けた全外食事業者数に対する倒産件数の割合となっており、結果的に0%であるが、この指標もあってもよいが、追加の指標が必要であった。本来みるべきは、債務保証を受けた企業の売上高など、経営指標もあるべき。
- 外食産業全体の売上や資金繰りが回復傾向にある中では、延長時に改めて需要や本事業の有用性を確認して検討する余地があった。